





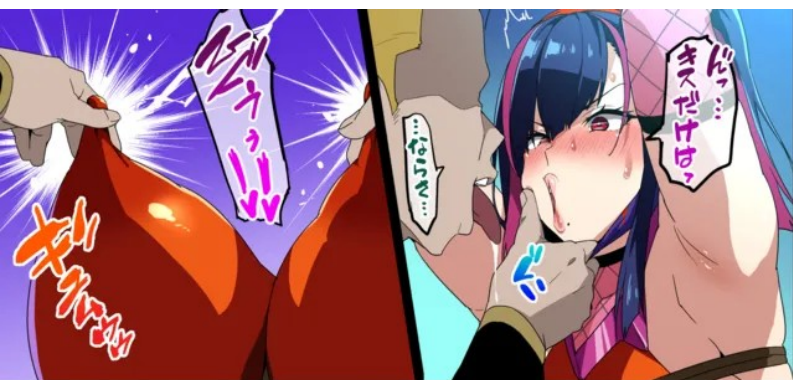
潜入任務3ヶ月と1日目

ギシッ……

「くっ……何のつもりですか？
指導を受けるとは言いましたが、この緊縛は…」
「何って指導ってんだろ？ドスケベ指導な♥」
「……確かに房中術は不得手でしたけど……
里の命とは言え……なぜ私が校長を誘惑など……」
「あの校長は、あんな見た目で女に困ってない上に
好みがるさくてな…他のくのいちじゃ籠絡
できなかったんだよ」
「…だからっ…他のシノビで駄目だからと言って
何故、私が…私には愛する夫もいるのに…」
「おいおい、本気で言ってるのか？
くれは先輩……」

「こんなバカでかい乳、ぶらさげてよっ!!!」
「ばちまんっ!!!」
「ひうっ!?♡♡♡」

「しかも感じると陥没乳首からデカ乳首が
飛び出てくるドスケベ乳だからなっ♥」
「パチンっ!パチンっ!パチンっ!」
「ひうっ!♡ひうっ!♡ひくっ!!!♡」
「(なんでっ?…こんな屈辱的な仕打ちを受けているのに…
おっぱいが…気持ちよくなってるんですが!♡♡)」
「くっ、乳だけじゃなく…尻に腹にも肉が
詰まってるからな、あの校長が好むエロボディってわけだ
……しかも……」



「人妻なら尚更だ…さあ舌出しな…♥」
 「んう……き、キスだけは……やめ……て…」
 「ああん？ダンナに気を使っただけか？……まあ、いいか…
 まずは、このマジでエグい乳から仕上げるからなっ！」
 「ひぐうう！！♥♥♥」
 「ほらほら…どうよ？そのうち乳だけじゃなく体中どこでも
 マンコの数倍、感じるようにしてやるからな」
 「ひう♥あう！♥ひぐっ♥ひううん♥」



「ふう♥…ふう♥…なんで……こんなに…」
 「ああ…オレは戦闘はからっきしなんだけどよ…
 指とかチャクラ通して揉み込むとな
 すごい感度あがんのよ…しかも
 チャクラを依頼人に合わせれば……」
 「ふうふう♥…依頼人？…里のこと？」
 「そうそう…まあ、そんなことより…」



べろべろお！
 「あひんっ！♥……くう、ちょっとソコは……」
 「クリも乳首みたいにデカく…マンコもスケベに…
 マン肉ぽってりのスケベ体型にしろってのが
 クライア……校長の好みだからなあ」
 「そ…そんな体になったら炎斗さんに何て
 説明すれば…ひうんっ！♥」
 「本当のこと言やいいんだよ、ごまかさず……
 普段はキリッとした国語教師してるけど
 裏ではスケベな体ぶらさげて淫語大好きな
 人妻教師になって校長誘惑します、ってな♥」
 「ふ…ふざけないで…んうう！♥」



ぶるんっ!

「ついでにデカチンも大好きにしてやるよ
俺のチンポは形も大きさも自在でな」

「なっ!?!」

(なんて大きさ……こんなの…夫の何倍も……
こんなの痛いだけ…まともに入るわけな…)

べしっ!べしっ!

「あぶっ♡へぶっ!♡」

「心配すんなって、俺のチンポいれられた女は
あとで必ず連絡とばしてくるんだよ…個人的にな」

「そ……そんなわけ…ひうんっ♡ああん♡」

(うう♡この匂い……頭がおかしくなる…

ち…チンポのニオイでアソコが……おかしな声まで
出てしまうわっ♡)

「ひおおんっ!♡♡」

ずぼっ!すぼっ!じゅぼっ!

「お♡っ♡おお♡んお!♡おつきすぎ…お♡お♡」

(おかしいわっ!こんなデカチンポ……ふつうなら
痛いはずなのにいい♡)

「言った通りっしょ?病みつきになっちゃうって!ふんっ!」

「〜ううっ♡…こ…こんにゃのお…ふくっ!♡」

「へえ〜…頑張るね……それなら…」

ぐりぐりぐりぐりっ!

「おほおおお!♡んほっ!?!にゃにっコレえ!?!♡

おおお♡おくう!赤ちゃん部屋のところにいい♡」

「亀頭振動回転させて子宮アクメさせちゃうってわけ」

「ひおお!♡炎斗さんの…おほっ赤ちゃん部屋あ♡

ぐちゃぐちゃにしないでええ!♡」



「そりゃ無理な話だわ、この『訓練』が終わったら
頭の中はチンポの事ばかりのピンク色に
染まっちゃうんだからな♪」

「そ…そこまで…ひぐっ！♡うぐう！♡」
(ダメえっ♡…子宮だけでなく本当に頭の中まで
おがしくされるうう♡♡)

「しかも…校長のチンポサイズにしてる上に……気や
フェロモンまで同じにしてるからな…ふっ！ふっ！♡
これでダンナの粗チンじゃ一生感じれない体になるわけ♪
「ぶぐううん！そんなに…こと…イぐっ！♡」
(ああ♡イキっぱなしにされてるうう♡
いやっ、いやよっ！エントさんのチンポ忘れちゃダメっ♡)
「わすれちゃ…いぐっ！♡…おっ！♡♡」

「すぐ忘れられるって！ホラ！」

「ばちんっ！ばちんっ！」

「ぶぎいいいん！♡お尻い！…いぐっ！♡

「ただかなひで…いんぐう！♡♡」

「くっ！思ったよりも全然具合がいいな……

校長がこだわるのもわかるな…へへっ

こんなスケベ女じゃ、さすがに、もう出るわっ…ぐっ！♡」

「ま…まっへ……中は…中はだけは

エントさんにっ……ひぐっ！！♡」

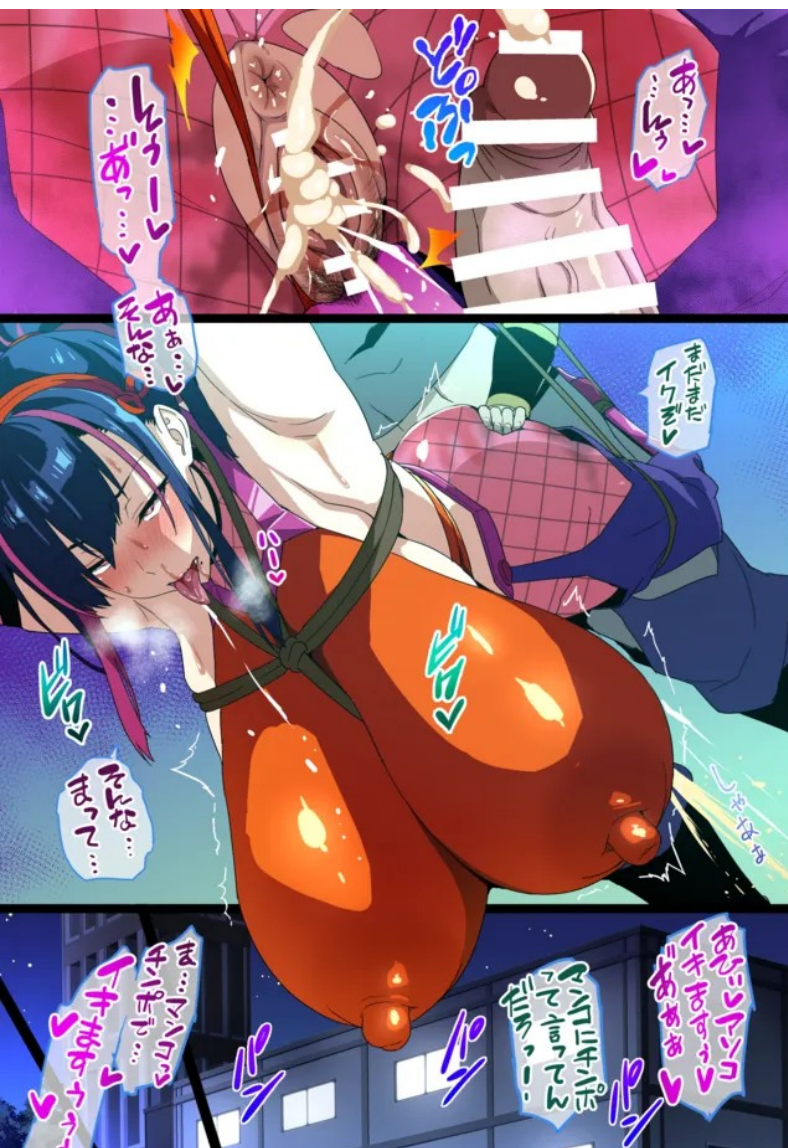
「孕ませるのも自由にできるのが調教師だからな…

心配すんなって…中出しザーメンすぐに好きに

してやるからさ…くれはセンパイっ♡」

「だ……めっ♡……おっ♡……

いぐううううう！！♡♡」



……ぶりゆっ

「ふうう……こんなに出したの久しぶりだよ
くっく！エロババアのくぜに、しつこく吸い付くるマンコだな」
「あ……ああ♡…だ…めっ♡……ぜったひ…
エントさんの……チンポではらむ…
……ひくっ♡」

「くっく！妄想でイッてるな……
だが今日で、その妄想もできなくなるぜ……
妄想する度、俺のチンポと今日のセックスのことしか
思い出せないようになっちまうからな…」
「はあはあ♡…いや……そんなこと…
ない……ぜったひに…」

「くっく！イッてろ イッてろ……
明日は休日だろ？悪いが朝までツキ合うからな♡」
「う…ぞでしょ？……はあ…はあ……
お…男の人って一回で終わるはず…じゃ…んっ♡」
「粗チン野郎と一緒にすんなって…
くのいちのくぜに他の男とヤッてねえのか？センパイ
どうやら体力と忍術だけでのし上がったせいで
房中術はマジでヤッてなかったのかよ…」
「ううう……炎斗さんのこと…悪く…いわないで…」
「へべ…だが、その体力のおかげで俺の『調教』に
朝まで付き合えるわけだけど……
普通の女なら子宮の振動攻めで大概気絶してるからな♡」

すぶう！！
「ひっ！？ひぐううう！！♡♡」

その日…男子学生寮の端にある部屋からは女の嬌声が
ずっと鳴り響いていたという……



潜入任務3ヶ月と7日目

「……まったく、あのエロタヌキ…また違う女連れ込んでやがる…マジでスケベジジイだな」
「あれが売買されている学生の可能性があるんですね…んっ♡」

「そういうこと……ククク」
「んっ！ちょっと…コラっ！やめなさいっ……炎斗さんの聴覚だと……聞かれちゃうっ…んう♡」
「心配すんなって、ここら一帯じゃ、どのホテル…部屋でもやりまくってるカップルだらけ…聞こえねーって」
「そういう問題じゃ……それに、この格好なんですか？監視するのに……こんな格好……」

「そう言いつつ、しっかり着替えてくれるクレハ先輩マジかわいいッスね♡」

「うくっ……か、からがわないでっ……んっ♡」

(最近、毎晩シてるからって……なにを意識してるんですか！私は……)

「これは、いつもの訓練も兼ねてっから……」

さあ、カップル演技の続きっす♡

ペロペロお〜♡

「ちょっ……キスはダメってえ……あんっ♡」

だ……だめえ……♡

(ダメ……変な声でてしまう…

昨日エッチの勢いでシたからって調子にのって…

…ああ、男くさいヨダレ撒き散らさないで……)

「うう♡……はあ、はあ……♡」

(私も私です…あれだけキスは拒否して守ってたのに……ああ♡すごい舌使い…)



くちや

(ああああ、シちゃった…またシちゃいました…)

「んべ♡んちゅ♡んちゅう♡んべえ♡」

(ああ…こんなエッチなキス……訓練とはいえ

…浮気に…浮気になってしまう……ああん♡

舌が絡み合って…溶けちゃいそう…♡)

「んちゅ♡あぶう♡んぶう♡……んちゅううー♡」
(もう…舌がどっちの舌かわからない……♡)

「んうううう~~~~♡んぶちゅう♡」

「んぶっ♥…いいぞお…ドスケベキスうまくなってきたな」

(んうう♡トスケベなんてえ……そんなのダメえ
こんなトスケベキス…まるで恋人みたいにい♡)

「んぶっ♥ごほうびっ♪」

「んぱううんっ！♡きひゅされながら……んぱちゅ♡」

手マン...すっごっ♡キスう♡んぶちゅううう♡

「キモひいい♡……んちゅうう♡」

(指っ♡Gスポットがりがりして……キモチいい♡)

ああ♡本当に頭おかしくなる♡

夫を裏切ってトスケベキスしてるのにっ♡)

「あぶ♡はぶう♡んぶううん」♡

「んぶっ、素直になったクレハ先輩えっろっ」

「んううう…言わなひでえ…んぶううう♡

んちゅ♡んぷちゅうん♡」



「あぶう♡んぶう♡んぢゅう♡」
(ああ♡頭の中も…オマンコの中もトロトロに
されてます……これじゃ、またされちゃう…
エッチしてくださいってハメ乞いする体にされちゃう♡)
「んぶう♡…コレ以上は…だっ……めえ♡…あぶう♡」
「それじゃあマジイキさせてあげますよっ♡ぶちゅう♡」

ぐちゅぐちゅぐちゅつ
「おっ♡んぽっ♡ひくっ…ひくう♡
ひくううう~~~~!!♡♡」
ぶじゃああああ!!……びくっ びくっ

「ひっ♡…おっ♡…おっ♡…んお♡」
(い…イガひゃれたあ♡……どしゅけベキスしながら
手マン……すっご♡こんなの…おがひくなるう♡)

「へへっ♡…できあがったな…今のクレハ先輩
マジドスケベでイイ感じのエロ顔になってますよ♡」
「あっ♡…んあ♡……ぶう♡……ぶう♡」
「それじゃあ、次イキますか……あのエロタヌキが好きな
ハメ乞い……前に教えたやつ、復習しましょうか♡」
「ああ…あれ……まだ……するの?……ぶう♡…ぶう♡」

「当然……優秀でスケベなクレハ先輩なら、もう覚えたっすよね…
……それじゃあ…そのベッドで……『やれ』よ?」
「うっ……」
(年下なのに…すごい圧……いつもなら睨み返してるけど……
今の頭がトロトロになった……
エッチになった私じゃ…さからえない…)
「わ…わがりました、ドウゴ『さん』♡」



「……ぴよ…ピョンピョン♡
よく来てくださいました～
ドスケベバニーのくればこと…
くーちゃんて～す♡」

(うう…いい歳して、こんなこと言われるなんて…
炎斗さんも聞いているかもしれないのに…でも…)
「お願いします♡あなたのデカニンジンここに……」

くばくば…ぴゅっ
(オマンコうずいちゃってます♡…ほしいのっ…ここにい♡)
「んうっ♡オマンコ忍術…び、ピラピラくばくばの術う～♡
この中にイれてほしい…びょんっ♡んう♡
アタタのを……くーちゃんのヨダレだらだら
ドスケベオマンコに……ちょうだ～い♡♡」
(ああ♡炎斗さん、ごめんなさいっ
私、この人のでかいチンポされるの望んじゃってます！♡)

「くっ♡…まあまあ…だな…
まだ少し、ぎこちねーけど……」
ずぼっ！

「おほおお～♡♡！！」

「ご褒美あげますよ、くーちゃんっ♡」
「おっ♡おっ♡おっきいのがあ…はいつて…んおっ！♡
おっ♡おほお♡すごひいつ♡んおお！♡」
「『おっきいの』じゃなくて、デカチンだろ？」
俺が教えた下品淫語わすれたのか？現役国語教師！♡」
「おほおお！♡デカチンっ♡デカチンすっげっ！♡
おほ♡おっ♡ぎもちいひい…おほ！♡」



「うまいこと言えたねえ、ごほうび——んべえ♥」
(おお♡顔が近づいてくる…私より年下だけど
たくましいドウゴさんの顔が…♡)
「んぶっ♡んちゅう♡んぶっ♡」
(ああ♡吸っちゃう♡ドウゴさんのヨダレも舌もお♡
こんなの完全に浮気♡浮気ドスケベせつくすう♡)
「んぶっ…マジでメスブタの顔になってきたな…んちゅ♥
一週間もただけでも大したもんだけどな…んちゅ♥」

「んぶっ♡…んちゅう♡~~ん♡」
(おっ♡おっ♡ダメエ……私が愛してるのは炎斗さん
…ダンナさん…なのに……こんなエロキスせつくすしてたら
体が…頭が誤認してしまいますう…♡)

「ひぐうう!!!!」
「今日の訓練もマジでイカせまくってやるからなっ
しかもカップルみたいにラブラブ種付けセックスでな! んぶっ♥」
「あひっ♡んぶっ!!! ♡おお♡
ドウゴさんのデカチンすごひい! ♡
くればのマンコお♡…んお! 完全に屈服してるう! ♡
おっ♡いつ…くう♡んおっ!!! ♡」
どぶぶっ!
「ぐっ! 射精しても…お前がいくらイッても止めねえからな…
覚悟しろよっ! 今日で完全色ボケババアにしてやるからなっ!」
「んおお! ♡いつく…♡んお…されちゃう♡
ドウゴさんのこと大好きな…デカチン大好きな
ドスケベババアにされちゃ……うおっ! ♡いつく! ♡」
どぶぶっ!
「おひい! ♡やっべっ! デカチンやべえっ♡
いぐのとまんなひ……あひっ♡あひっ♡
たひゅけて…エントさ……おおお! ♡」

その後、1時間近くのノンストップの種付けラブラブ
セックスが続けられ……



「……ふう……どうだった？クレハ先輩っ♡」

俺の浮気ラブラブセックスは…
これがアンタをイカせ続けたデカチンですよ～♪」

「…ふう…ふう♡…んびちゅ♡…むぢゅううんっ♡」

「くっ…聞くまでもねえか……」

嬉しそうに鼻の下のばしながらキスしてきてよ…くっ♡」

むくむくっ

「あ～♡アンタのスケベ面のせいでまた勃起して
きちまったよ」

「へっ♡へっ♡へっ♡…くださあい♡
デカチンっ♡でがちん～♡」

「ほら…舐めていいぞ…クレハ♡」

「はひっ♡べろべろお～ん♡あはっ♡…すごいつ♡」

さつき出したばかりなのに、もう、おつきくなる…んべえ♡」

「お前がスケベすぎるからだろ…マジで
いい感じのエロババアになってきてるぞ♡」

「んべえ♡んばあ♡ババアって言わないでえ…んべ♡」

「くっ…それより、すぐまた始めるぞ…そうだな
次は俺好みの下品な喋り方で……夫の粗チンパカに
しながら…浮気セックスな♪」

「んびちゅうう～ん♡…そんなあ…」

(ごめんなさい…炎斗さん……これは…
任務……訓練ですからあ…♡)

「仕方ないですねえ～♡訓練ですし…んびちゅう♡

これからトウゴさんとマジでエロエロな
浮気セックスしまくっちゃいまあ～す♡んちゅう♡」

ちゅっ♡ちゅっ♡ちゅっ♡

「くっ…こんなチンポキスで求愛されたら
答えるしかねーな…クレハ♡」



潜入任務3ヶ月と20日目

「くくっ……めっちゃ見てたな、お前のダンナ♪」
「…だ…旦那じゃないです……今は……私は
ドウゴ先輩のカノジョ…『くーちゃん』ですっ♡」
「くくっ、この三ヶ月でマジで頭の中ピンク色になっちゃったな…
まあ他の女なら半分もかからねーから…
お前は優秀だよ『くーちゃん』♥」
「あ…ありがとうございます♡
ドウゴせんぱいっ……はあはあ♡」
「んじゃ…優秀なお前ならナニすればイイか…わかるよな？」

「はあ～い♡…ドウゴ先輩のカノジョ……
『くーちゃん』はあ…
……ぴら～ん♡」
スカートを自ら捲ると濡らしたショーツを見せつけるクレハ
「おパンツ…ドウゴ先輩の為にヌレヌレにしておきました♡
あはあ～ん♡」
「ぶっ♪…いや、バカっぽくて笑っちゃうな」
「ああん♡…酷いです…ドウゴ先輩の為にしてるのにい♡」

「あ～、そうだったな……あのタヌキ好みのエロバカBBAに
するんだったわ……んじゃ、ご褒美に…お前が最初
嫌がったペロチューしてやるよ……あ～♡」
「おほっ♡……ぷうぷう♡…ありがとうございますっ♡
いただきまあ～す♡……んぷぢゅうう♡」

（おお♡このヨダレ…うっまつ……♡
若い男のヨダレたまねえ♡）
「んぷぢゆるるる♡んぷっ♡んじゅぷ♡んぷう♡
ドウゴひえんぱあ～い♡ちゅき♡ひゅき♡」
「んぶっ！すげえマンゴヅラ…んぶっ♡」
「ドウゴひえんぱいは…んぷぢゅ♡いけめ～ん…んぷう♡」



「ホラ、そのBBAマンコにいれてやる、ありがたいチンポだぞ♡」
「ああん♡ババアなんて……クレハはJKですよ…
おっ♡いつも通り、でっか♡」
(かなりキツいな……だがクライアントの好みではありそうだ)
「では恋人チンポにラブラブなドスケベフェラ…
はじめまあ〜す♡んべえ♡んべ♡んべ♡」
べろべろべろ

「ぐっ♡…舐め方うまくなったよな…ぐっ♡
「ありがひようござひますう♡…クレ…『くーちゃん』自慢の
デカパイのバイスリフエラも楽しんでえ♡んべ♡んべ♡」
ズリズリっ
「んぼっ♡んぼっ♡んぼっ♡…♡
ひえんばいのイケメンチンポすっげ♡んぼっ！♡
エントひゃんの粗チンと違うう♡んぶちゅう♡」
「くっ♡聞こえちまうぞっ♡ぐっ♡」

「ああん♡ごめんなひゃい……んぢゅぶ♡
あまりにも違うから…つい…んほお〜♡んぢゅ♡
それよりチン汁うめっ♡んぶう♡んぢゅ♡」
(ああ♡聞かれてるのにイッっちゃった♡
でもこういう『訓練』なんだから……わがってくれますよね
エントさああん♡)
じゅぼぼぼ

「うぐっ♡……やべ……一発目でそ…」
「ん〜♡だひてえ……クレハのロマンコに
んぶちゅ♡新鮮な…んぶっ♡ドウゴせんばいサーメン♡
くだひゃひ♡んほ♡んぶっ♡」
「『くーちゃん』設定忘れてやがる…ぐっ♡
まあいっか……出してやるよ……うぐう！！」



「んぱううう！！♡♡♡」
(おお♡濃いきたああ♡子宮に射精してもらったら絶対妊娠するやつうう、いただきます♡)

「んぐっ♡んぐっ♡んぱうう♡」
ごくっ！ごくっ！ごくっ……
「βはあ……んへへ♡このザーメン飲むだけで…
んひっ♡軽イキしちゃいました…んっ♡」
「食べ終わったら…言う事あるだろ？」

「あ~~~~♡
ドウゴひえんばいのラブラブザーメン
ごちそうひやまれひたあ♡」
「よく言えたな…よしよし♡」
「ああん♡ドウゴ先輩…ナデナデなんてしたらあ
もっ♡好きになっちゃうん♡好き♡好き♡
ドウゴせんぱ~~~~い♡」

「おいおい、旦那も聞いているのにイイのかよ？くっ」
「お仕事だからだいじょうぶでえ~~す♡
デカチンポ大好きなこと
告白してもダイジョウブ~♡」

「完全に頭ん中、マンコとチンポのマンコ女になってんな♪」
「そうでえ~す♡クレハは、あたまチンポの
オマンコ甘…でええ~す♡んひっ♡」
「いいぜ、それなら頭がオマンコってところ証明してみな」
「もちろんです♡頭のなかデカチンポでいっぱい♡
マジでトスケベになってる証明としてえ……」



「アタマにおパンツがぶりま〜す♡いえ〜い♡」
(ああ♡エントさんも聞いているのに頭にパンツ
がぶっちゃったわ♡いくら訓練でもやりすぎ♡
こんなのガチでドスケベのヘンタイぢゃない♡)

「んへ♡ガチでマン汁つき噴きまくった
シミつきおパンツ被りながらピースしちゃってる♡
おっ♡マジでオマンコぢになっちゃってる…うひっ♡
マジやっべえ♡」

「あんだけ言葉遣いにうるさかった国語教師だったのにな
だいぶスケベ言葉撒き散らすアホ女になって嬉しいぜ♡」

「ああん♡ドウゴ先輩のおかげでえ〜す♡
だから、げっひんなドスケベ淫語まきちらす
エロババアにデカチンでパコってえ〜♡」

ぶるんっ
「おほっ!♡
いつ見ても…マジでつけえ♡」

「いいぜ……今日もいれてやるよ…生で♡
おら、腰つきだせ」
「うひっ♡ありがとうございます♡」
(やったあ♡今日も生チンポ…
いただきまあ〜す♡)

「今日も生で……危険日とか気にせず
デカチンザーメンこき捨て……
んほおお!!♡♡」



「おっ♥んお♥おお♥おおっ♥すっげ♥
デカチンたまんねえっ♥いぐっ!♥」

「おいおい、早くイキすぎだろ……んぶちゅ♥」
「んちゅうらん♥だめっ♥イッてる最中に……んぶらん♥
キスハメ…んぶちゅ♥……好きになるっ…んちゅ〜♥
ガチで好きになっちゃっ♥おっ♥いぐっ……んぶちゅ♥」

「うぐっ♥本当にエロいBBAだな…ぐっ♥
マジで俺のメス豚にしてくるってきたわ…ぐっ♥」
「して♡してえ♡ぶひっ♥ぶひひっ♥
クレハはドウゴ先輩のメスブタになりま〜す♡ぶひいん♥」
「くっ…女として終わってんだろ…」

「おっ♥んお♥終わってますっ♥オナホだからっ♥
おっ♥…すっげ♥…んお!♥生ハメやつべ…んお!♥」
(くっ…マジでエロタヌキには勿体ねえ……
でかいクライアント案件だが…俺のオナホにしてえ)
「おら! 孕ませてやるから…子宮おろせっ!」
「はひい!♥孕ませてえ!!!♥
夫もまだ孕ませてない
子宮…オナホにコキ捨てするみたいだに…
無責任中出しいい!♥♥」
ずぼ! ずぶっ! ずぶぶっ!

「おおっ!♥デカチンぶくらむう…んぶひっ!♥
クレハのオナティッシュマンコに……
コキ捨てしてくださいああい!!!♥♥」
「うぐっ…!!!♥」



どぶぶぶぶっ!

「お! おお! !!♡♡
ひくうう!! !!♡♡いつ~~くうう!!♡♡
どぶどぶ...どぶぶ...

「うぐっ!♡やば.....マジで出るっ...ぐう!♡」
(俺としたことが.....こんなスケベノバアに
ガチ射精させられるとは.....)
「ひー♡ひー♡.....あっ♡.....あはあ.....♡
はいっでくる.....んぷひっ♡」
「うぐっ♡.....ふう.....♡」
どぶどぶ...

「お!お♡射精...なっげえ♡...うひっ♡
子宮あふれるっ...ひお♡...まだ...いっく.....♡
うひひっ♡...コレやっべ♡」

「くく.....これからは校長対策の『訓練』以外に...
俺好みのメス豚になる『訓練』もくわえていくぞ...
俺『専用』のオナホになる為に...な」
ぼそぼそっ

「ああん♡♡.....はひい...お願いしまあす
ドウコ先輩のこと...もっと好きになっちゃう『訓練』
いっぱいシたいです」
(コレ以上すごい『訓練』されたら...もう
戻ってこれなく...なりますう.....♡
たすけてえ~ん♡エントさ~ん♡)

「くくっ...♡楽しみだよな、クレハ...んぶちゅ♡
(決めた.....こいつはマジで俺のオンナにしてやるよ♡)



◆火野 くれは(28)◆

T167 B129(Qカップ) W69 H120

シノビの里に所属するクノイチ
戦闘能力が高く脂肪を贅力に変える忍術を
扱う家系、おかげで食いしん坊。
だが名家の産まれで育ちがよく
そのことをバれること嫌う。

幼馴染の炎斗と結ばれ、幸せな家庭を
築くはずだったが里の命で夫と教師として
とある学園の潜入任務に向かうことになる…

そこで彼女は校長などからセクハラを
受けるが厳しい態度で返し生徒達からも
人気を得る、国語教師でエロい男を嫌うが…

この潜入任務の際に一緒に行動することにな
ったドウゴによって彼女の運命は
そのスケベな体にあふさわしい道を
辿ることになる……



◆火野 炎斗(28)◆

くれはと同じシノビの里に所属する上忍
戦闘より諜報活動がメインだが優秀なシノビ

今回は新婚の妻と一緒に任務で
張り切っている……だが、そこに
仕掛けられた罠に気づいていない

粗チン。



◆ドウゴ(??)◆

シノビの里に所属する新人の下忍
房中術が得意でチンコがデカい
指先から神経にチャクラを通し性感のツボを
刺激したりチンコの形など自在に操る

本当は女性を売買してる犯罪組織の調教師
依頼主の思うような女に変えてしまえる
最低のシノビ

◆校長(52)◆

麗堂学園の校長、デカチンでスケベ、セクハラも行う最低校長だが
何故か問題にならず学園の校長で居続けている……その招待は
女性を売買する組織の長、学園の生徒から教師まで今まで何人もの女性が
その毒牙にかかっている